

令和元年度 F D 実施報告書

学部・学科	栄養科学部・栄養科学科
<p>F D 取り組みへの理念・目標</p> <p>平成 30～令和 2 年度の第 7 次中期総合計画の教育計画に基づき、栄養科学部栄養科学科教員の教育と研究における質的向上を目指して、FD 活動を推進する。すなわち、①次世代管理栄養士育成のためのカリキュラム改革（重点取組項目）、②管理栄養士国家試験や教員採用試験の高い合格率維持のための計画策定と着実な実施（重点取組項目）、③グローバル人材育成に寄与する長期留学制度の導入と環境整備、④西日本での栄養科学の研究拠点化を目指した研究活動の推進（重点取組項目）である。</p>	
回数、期間、実施日等	実施事項・内容、実施組織、評価項目等
<p>5 月 30 日 (第 1 回)</p>	<p>学科会議後に、FD 研修会を実施した。</p> <p>FD に関する相互理解を深めるため、次の 2 点について、安武准教授 (FD 推進委員) が資料を基に約 30 分間の説明 (20 分) と質疑応答 (ディスカッションを含め 10 分) を行った。</p> <p>1)平成 30～令和 2 年度の第 7 次中期総合計画の教育計画、2019 年 FD 実施計画 2)FD 活動 (公開授業、教育ワークショップ、授業アンケート、学科内 FD の推進) と FD に関連する語句 (FD、アセスメントポリシー、アクティブラーニング、ループリック、PBL など) の意味や活用法</p> <p>ディスカッションでは、特に公開授業促進について意見交換が行われた。(約 30 分間)</p>
<p>7 月 4 日 (第 2 回)</p>	<p>三成国家試験対策委員長および河手国家試験対策室長より、管理栄養士国家試験の高い合格率を維持するために、4 年次の指導主任のみが対策に関わるという従来のスタイルから、卒論担当の教員が主体的に対策に関わる新体制への転換をすることについて説明がなされた。また、卒論担当の学生を持たない助手、助教および新任教員を含め、全教員が国家試験対策に関わるという意味統一を行い、学生教育の質向上を目指すこととなった。(学科会議内で約 10 分間)</p>
<p>7 月 25 日 (第 3 回)</p>	<p>太田 (千) 准教授より、グローバル人材育成に寄与する教員の留学について、留学制度を活用した自身の国立臺灣海洋大學での留学生活の報告を交え、資料とスライドに基づき説明がなされ質疑応答を行った。まず、教員自身が、国際感覚を養うことの重要性が強調され、特に若手教員において留学の意識を持つことが勧められた。(約 40 分間)</p>
<p>9 月 9 日 (第 4 回)</p>	<p>「教育ワークショップ」において、教務システム UNIPA と N ノートの活用法について学科全員で学習した。UNIPA と N ノートの活用法について、授業法の新たな選択肢が提供されており参考になった。</p> <p>これをどのように個人または学科で発展させるかが、今後の課題である。(3 時間)</p>

<p>9月26日 (第5回・臨時)</p>	<p>公開授業の見直しについての栄養科学科の意見を集約するため、安武准教授 (FD 推進委員) が資料に基づき説明し、その後、ディスカッションを行った。詳細は FD 推進センターに提出された報告書のとおりでありここでは割愛するが、要点として、ベテラン教員は、新入教員や若手教員の講義・実習のチェック、新入教員や若手教員はベテラン教員の講義・実習で講義技能を学ぶことを目的に、これまでよりも積極的に参観することのコンセンサスが得られた。(約 25 分間)</p>
<p>10月31日 (第6回)</p>	<p>安武准教授 (FD 推進委員) より、第5回臨時 FD 研修で得られた意見を取りまとめた資料に基づき、次年度の公開授業に関する学科の意見について確認がなされた (その後、FD 推進センターに学科案を提出)</p> <p>小野講師より、新カリキュラム・栄養クリニック演習の成果と課題について、学生のアンケートデータ解析結果に基づき説明がなされた。学生の自己評価結果では、本演習を通して、管理栄養士として対象者と接する際の重要度に対する考え方や自己評価のいくつかの項目が有意に変化しており、一定の成果が得られていた。一方、本演習の時間割が設定されていないこと、助手配置がなかったことなどをはじめとした様々な課題が明らかとなった。次年度の改善項目について整理がなされた。(約 30 分間)</p>
<p>1月24日 (第7回)</p>	<p>萩尾准教授より、「大学で教えるときに役立つ授業方法と授業デザイン(2)」というテーマでレクチャーが行われた。学生生活実態調査で抽出された「教員の教え方について」の自由記述による回答 (授業改善を求める指摘や要望等) 内容を共有し、その課題解決につながる『評価』に改めて着目し、授業改善の様々なヒントが提示された。質疑応答も活発であり、教員の資質向上のために意義のある時間となった。各教員は、学生の声にもっと耳を傾け、講義の内容や評価方法をブラッシュアップする努力をすることについてコンセンサスが得られた。(約 40 分間)</p>
<p>2月27日 (第8回)</p>	<p>「合同研究大会」において、栄養科学科、フード・マネジメント学科および食物栄養学科の各教員が取り組んでいる研究について説明がなされた。栄養科学科からは、今年度に着任された、中藤准教授より「機械学習による学術論文の品質予測」、渡邊准教授より「栄養管理・栄養指導評価を高める取り組み」というテーマでそれぞれ講演が行われ、これまでの研究への取り組みが共有された (2 時間)。</p>

「教育システム改革 2014 (FD2014)」の進捗状況

項目	主な実施内容	進捗状況	補足説明
<p>授業科目の組織的な管理</p>	<p>ルーブリックの導入</p>	<p><input type="checkbox"/>未着手 <input type="checkbox"/>検討中 <input checked="" type="checkbox"/>実施中 <input type="checkbox"/>実施済</p>	<p>一部の科目のレポート評価などに導入されている。ルーブリック評価の導入が可能な科目について引き続き検討する。</p>
<p>教員の教育力に対する評価の導入</p>	<p>授業アンケート結果の組織的な活用</p>	<p><input type="checkbox"/>未着手 <input checked="" type="checkbox"/>検討中 <input type="checkbox"/>実施中 <input type="checkbox"/>実施済</p>	<p>全学的には、学生の授業アンケート・ベストティーチャーの投票、公開授業のアンケートが実施されているが、その活用については検討中である。</p>

<p>教育方法の改善</p>	<p>アクティブラーニング(特にPBL)の推進 PBL：課題解決型授業</p>	<p><input type="checkbox"/>未着手 <input type="checkbox"/>検討中 <input checked="" type="checkbox"/>実施中 <input type="checkbox"/>実施済</p>	<p>実験・実習や一部の科目および卒業研究では、既にPBLの考え方が導入されている。導入が可能な科目について。引き続き検討する。</p>
----------------	---	---	--

「FD2014」はサイボウズのファイル管理－「FD推進センター」にあります